

荒尾に芸術の華が咲きました

芸術文化の祭典 『市民文化祭』



劇団かたつむり公演

昨年10月23日～11月20日の約1ヶ月にわたり、文化センターで荒尾市民文化祭が開催され、さまざまな芸術が披露されました。



舞台芸能合同発表会



混声合唱団 ARAO 定期公演

大ホールでは、舞台芸能合同発表会第1部にはじまり、混声合唱団 ARAO 定期演奏会、劇団かたつむり公演に続き、舞台芸能合同発表会第2部で幕を閉じました。舞台芸能合同発表会では、民踊、日本舞踊、三曲、現代舞踊、吟詠、民謡、太極拳、剣詩舞、大正琴、バレエ、フラダンスが披露されました。

ギャラリー、アートフォーラムやホワイエでは、文芸展（詩・短歌・川柳・狂句・俳句・少年少女俳句）、総合美術展（絵画・書道・写真・工芸・押花）、華道展、小岱松展、海達公子展、パッチワーク展など、多くの展示がされました。小中学生による児童生徒作品展も行われ、日頃の成果を発揮しました。



1_文芸展 2_文芸展表彰式 3_総合美術展 4_小岱松展 5_パッチワーク展 6_児童生徒作品展 7_華道展 8_総合美術展表彰式 9_海達公子展

中学生の税についての作文

平成28年度中学生の税についての作文（主催：税を考える週間実行委員会）に、荒尾・玉名地域の中学生から1,981編の応募があり、本市からは次の3人の作品が優秀作品に選ばれました。玉名税務署長賞の荒尾海陽中学校1年・鶴田さくらさんの作品をご紹介します。

●玉名税務署長賞

『税金について考えたこと』

荒尾海陽中学校1年 鶴田さくらさん

●荒尾市教育長賞

『税金への感謝』

荒尾第四中学校3年 佐藤咲さん

●荒尾市長賞

『みなさんは、「税」という言葉を聞いて何を思い浮かべますか?』

荒尾第三中学校3年 古賀遥さん



荒尾海陽中学校1年 鶴田さくらさん

玉名税務署長賞 『税金について考えたこと』

私は、長洲町の「金魚とこいの郷」で毎年年に2回行われるイベントに家族と出かけています。そのイベントでは、木材を使ったキーホルダーやイス、置き物作りなど様々な工作を無料で体験させてもらえます。私は、毎年このイベントを楽しみにしていて、キーホルダーや置き物をボランティアの大学生に習い、作って持ち帰らせてもらっています。工作している時に、ふとこの工作は全て無料で作ることがで

きるけれど、材料費はどこからお金が出ているのだろう...と思いました。そこで、去年近くにいた係の人に、母とたずねてみました。すると、係りの人が、「『木育』というものの事を広めるために、補助金が使われているんですよ。そこから出されているんですよ。」と教えてくれました。補助金は、税金からきているのだそうです。私は、税金によって自分がそういった貴重な体験をさせてもらっている事を初めて知りました。税金のおかげでこのような体験ができる事は有りがたいな、と思いました。私は、税金といえば道路や公共施設に使われているイメージしかなかったけれど、この長洲町の木育のイベントのような、体験学習にも使われているのを知りました。

学習といえば、普段私達が学校で使っている教科書も、裏表紙をよく見ると、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。」と書いてあります。私達が気付いていない色々なところで、税金が役立てられているのを改めて感じます。もしも教科書が無償ではなく有料だったとしたら教科書を全てそろえるのにも大変なお金がかかります。でも税金が使われていることで、私達は平等に誰でも様々なことを学ぶことができます。

私は、今まで長洲町のイベントの工作や学校の教科書を、誰かが納めた税金のおかげで体験したり使ったりする事ができていた事に意識した事が無かったです。しかし今回、税金について考える機会を持ったことで、感謝の気持ちが生まれました。これからは皆さんの学びの機会を大切に、勉強をしていきたいと思いました。そして、私も将来はしっかりと納税をします。